令和3年度　学校評価総括表

教育目標	日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、時代の進展をみつめ、人権を尊重する民主的な社会の創造に努める人間の育成を期する。	総合評価
運営方針	１　人権尊重の精神に徹し、正しい生き方の自覚を深め、社会連帯の精神を養うとともに、人間性豊かな生徒の育成に努める。 ２　基礎学力の定着を図り、専門的な知識と技術を習得させるとともに、創造的な知性・技能を育てる。 ３　正しい判断力と強い意志力、たくましい心身を育てるとともに、自律的な生活態度を養う。 ４　体験的な学習や実践を通して、正しい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、自信と意欲をもたせる。	A

令和２年年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標
これまでの取組を更に充実・発展を目指していく。進路面では上場企業の他、4年制大学や公務員の合格、また、２０年連続就職内定率100%の実績も持続できた。実社会に通じる節度ある行動が出来るよう指導の徹底を図る。 令和２年度におけるアンケート調査では、保護者から「王寺工に行かせてよかった」という項目において９５%を超える高い評価を得ている。保護者からの要望の高い「資格取得に向けた補習」、「社会性の育成」、「企業見学や企業体験」などを一層充実させ、生徒・保護者の信頼にこたえていきたい。 また、教職員の連携やコミュニケーションをより一層図り、一丸となって積極的に生徒と係る姿勢を常に保持し、現状維持ではなくさらなる向上を目指したい。	1　生徒一人一人の人権と命を大切にする教育をあらゆる教育活動の中で推進する。部活動やボランティア活動を奨励し、人間力の育成に努める。	人権尊重の精神に立ち、自他を敬愛する心を育む。積極的に部活動やボランティア活動への参加を奨励する。
	2 分かりやすい授業、きめ細かな指導を行い、生徒の学力向上に努め	個々の学習状況を把握し、きめ細かな指導を目指し、常に授業改善に努める。
	3 基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。	挨拶励行を基盤とし、礼儀やマナーの向上に努め、積極的に生徒にかかわる。
	4 工業教育の充実と、 キャリア教育の推進と就職指導・進学指導の充実を図り、生徒の専門性を高めるとともに進路を実現する。	産学連携や生徒の自主活動を奨励する。資格取得を推奨し積極的にサポートする。就職、進学ともに質の高い進路指導を行う。
	5 保護者や地域への情報発信に努め、地域とともにある学校づくりを	学校からの情報発信に努めるとともに、地域の方々と協働する機会を増やす。
	6　教職員の勤務時間・健康管理を意識した働き方の推進と業務改善に	部活動の活動計画表の作成と管理および、健診結果や労働時間の客観的な把握を行う。

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
学習指導（教務）	「分かりやすい授業」「楽しい授業」など個の能力に応じたきめ細やかな学習指導を目指し、授業改善を進める。	「分かりやすい授業」「きめ細かな指導」を目指し、授業改善アンケートを実施し、その結果を踏まえて、改善を目指す。 アンケートの回数　**Ａ：3回　Ｂ：2回　Ｃ：1回**	C	B	B	全校生徒に授業改善アンケートを実施して、授業改善に努めた。今年度も1回しか実施できなかったが、昨年度同様にフォームを利用して実施できた。	・来年度から観点別評価を実施するため、内規を変更し環境を整え、職員の共通理解の下,取り組んでいく。 ・分かる授業に向けて、生徒からのアンケート結果を真摯に受け留め、各授業担当者が授業改善することが望まれるので、アンケートを学期に1回実施していきたい。アンケートもフォームを利用し,実施出来たので、同じ方法で実施していきたい。	A
		シラバスに従って、目標を達成できるような指導を目指す。 達成度　**Ａ：達成した　Ｂ：概ね達成した　Ｃ：達成できなかった**	B			コロナ禍の影響で、シラバスに従って授業を行うことが困難であったが、概ね目標を達成できるような指導が出来た。		
		観点別評価により、評価を行うことを目指す。 達成度　**Ａ：評価できた　Ｂ：概ね評価できた　Ｃ：評価できていない**	B			観点別による評価を、2学期に各教科で取り組む事ができてきた。		
	生徒の課題解決能力を養えるように自主研究を促進する。	社会人講師や外部指導者による工業技術を学ぶ機会を設ける。 実施学科数　**Ａ：３学科　Ｂ：２学科　Ｃ：１学科以下**	B	B		コロナ禍の影響で、実施出来なかったことも多くあったが、限られた時間の中で、工業技術等学ぶことができた。	・工業の専門力育成のため、「ものづくり」への関心・意欲・態度を高めるため、日頃から生徒作品や工業製品・工業技術に触れさせたり、見させるように取組んでいきたい。感染対策を十分に行い課題研究発表会を行えるように検討する ・学校設定科目Research&Discoveryや課題研で究探究的な見方・考え方を身につけ、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。また、課題を発見し解決していく過程で、協働する姿勢、プロセスを具現化し伝えることができる能力を今後も育成できるように取り組んでいく。	A
		課題研究ので優秀な研究を１・２年生の前で発表する機会やパネル展示の機会や学校設定科目で話し合いや発表の場を設ける。 取組み回数　**Ａ：３回以上　Ｂ：２回　Ｃ：１回以下**	B			感染予防対策を行い、各科で課題研究の発表を行い、研究の成果をみせる機会を設けられた。各科の優秀作品を決めることができた。		
		課題研究等の優秀な作品を、本校の生徒作品展示場「ギャラリー工業」の展示に加える。 展示作品数　**Ａ：３作品以上　Ｂ：２作品　Ｃ：１作品以下**	c			課題研究の成果を生徒や来校者に対して展示することで、学校の取組みを理解してもらえた。パネル展示であったが県産業教育フェアにも出展できた		
学習指導（教務ＩＴ）	成績処理システムの試行と研究を行う	成績処理の運用がスムーズに行えるように、研修を行う 実施回数　**Ａ：５回以上　Ｂ：３回以上　Ｃ：１回以下**	B	B	B	研修を行う機会が設けられなかったが、マニュアルを作ることで、かなりスムーズに行えるようになった。また、処理日程の日を長めに取ることができた。	・成績処理等のスケジュールをゆったり目にとることで、スムーズに行えるようになった。コロナ禍の影響により、出席に関することや試験に関する事で、入力の仕方など複雑な面もあったが、マニュアルなど用いて、共通理解をして、取り組むことができた。 ・観点別評価に対応した「賢者」が利用できるまで、Excel等を使用し対応していく。 ・ホームページでも各種情報発信を行っていけるように、ホームページの更新時期、回数、内容を見直していかなければならない。	B
	観点別評価の実施に向け、システムの試行と研究を行う	観点別評価により、評価を行えるように、研修を行う 実施回数　**Ａ：５回以上　Ｂ：３回以上　Ｃ：１回以下**	C			来年度に向けて、内規を変更するなど準備は整ってきた。しかし「賢者」のシステムがまだ、整っていない。		
	ｗｅｂページを更新して情報発信を行う。	ｗｅｂページを毎月平均２回以上更新を行い、中学生・保護者・企業に対して情報発信する。 年間更新回数　**Ａ：24回以上　Ｂ：20回以上　Ｃ：12回以下**	B			毎月行事予定を掲載することはできた。コロナ禍の影響で行事が中止になることが多く、更新する内容が少なかった。月1回ぐらいしか情報発信はできなかった。		

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
式典・広報・ＰＴＡ連携活動（総務）	儀式的行事の円滑な運営を図る。	各分掌・学年と連絡・調整を行い、コロナ感染拡大予防に努め、円滑に実施する。儀式等をホームページにアップする。	A	B	B	コロナ感染拡大防止に努め、各分掌・学年との連携・調整を行いながら、始業式・終業式・表彰式は、教室で実施した。入学式・卒業式は、式次第の見直し、椅子の配置の工夫などコロナ感染拡大防止に努め、体育館で、厳粛に実施できた。入学式と卒業式はＨＰにアップした。	来年度も始業式・終業式・表彰式は、関係部署との連携を図りながらコロナ感染拡大防止に努めながら教室で実施していく。コロナ感染拡大防止の観点から3カ年皆勤の表彰は行わない。教室にモニターを設置すれば式典を効果的に実施できる。	A
		教職員の共通理解を図り、全教職員の協力体制を整え、儀式的行事に取り組む。	A	A				
	学校案内リーフレット等の内容の充実を図るとともに、王寺工業高校の魅力を発信する。	各科・学年・分掌との連携を密にし、学校案内リーフレットを更新し、最新情報を伝えられるようにする。 学校説明会でアンケートを実施し、「たいへんよく理解できた」「理解できた」の割合　**Ａ：90%以上　Ｂ：85%以上　Ｃ：80%以上**	A	A		学校案内リーフレットを最新のデータに更新し、奈良県の全公立中学校に送付し、本校の最新情報を伝えた。学校説明会を中学生のみの参加で10月に実施した。参加者数は８６名であった。実施後のアンケートで大変よく理解できたと理解できたが合わせて９６．５％あった。	関係各部との連携を密に図り、学校案内リーフレットに最新の情報を掲載できるよう計画的に準備を行う。各中学校への資料等の送付やHP等で本校の最新情報を広報していく。	
		奈良県内の公立中学校や新聞社・報道機関へ本校の取組や学校行事等の情報発信を積極的に行う。 情報発信回数　**Ａ：10回以上　Ｂ：7回以上　Ｃ：5回以上**	B	B				
	育友会との連携を図り、教育活動への理解と協力を求める。	育友会評議委員会など育友会活動の様子や王工祭やマラソン大会の案内をＨＰにアップし、育友会活動への理解を図る。 ＨＰへのアップ回数　**Ａ：５回以上　Ｂ：３回以上　Ｃ：１回以上**	B	B		コロナ渦、例年実施の活動ができなかった。育友会評議委員会の様子をは毎回HPにアップした。各種研修会の開催も少なかったがすべて参加いただいた。	育友会本部役員・評議委員との連携を密にし充実した活動となるよう協力する。育友会活動の様子をHPにアップし育友会活動への保護者の参加を促していく。	
		育友会本部役員・評議委員との連携を密にし、各種研修会への参加を案内し、充実した活動となるよう協力する。 各種研修会出席率　**Ａ：80%以上　Ｂ：70%以上　Ｃ：60%以上**	A	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒指導	生徒に積極的にかかわり、社会人として必要とされる礼儀を身に付けさせる。	本校の伝統になっている礼節を重んじる校風と挨拶運動を推進する。 生活委員を中心とした挨拶運動を習慣づける。　年間のべ日数について **Ａ：２１日以上　Ｂ：１６日以上　Ｃ：１３日以下**	B	B	B	生活委員から始まり、生徒会本部役員や部活動員などが加わってのあいさつ運動は一定の効果があるが、挨拶の輪の広がりには課題が残る。	生活委員の担当分けを、学年・専門科だけでない分け方により、あいさつ運動のメリハリがつくよう更なる工夫をしていく。まず伝統的な「王工生」を養成し、その生徒を軸に生徒相互で高め合える環境を職員が作り出す必要を感じる。校内巡視や下校指導においても、巡回ふくめてポイントも見直していく事で、生徒を見守り、校外からの苦情にも対応できるようにする。	B
		定期的な校門指導や、効果的な下校指導（校外）を行う。多様な生徒の姿を知るため、昼食時の校内・廊下の指導を、校内は分掌全員で分担し廊下は学年で分担し毎日行う。	B	B		校門指導週間を年５回行い、クラス担当以外も毎日校門指導をすることで、よりきめ細かい指導が出来ている。一方、学校周辺での通学トラブル・近隣住民からの苦情も増えている。		
	基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。	基本的な生活態度の醸成につとめる。 年間総遅刻回数前年度比　**Ａ：２０％減　　Ｂ：１０％減　　Ｃ：変化無し**	C	C		コロナ禍で不安定になる生徒、起立性調節障害を持った生徒、ヤングケアラーで起きづらい生徒など、多様な生徒課題が浮き彫りとなった。	今まで以上に「多様な」生徒・保護者が在籍し、教師の連携と生徒への「多様な働きかけ」が必要とされる。特別事象の対象生徒の多くは、その後進路変更をする形となり、入学した生徒を「王工生」に育てていく課程で「規範意識の教育」が必要である。生徒指導通信も、コロナ禍で集会が開催しづらい時期だからこそ、発行の頻度を多くし内容を精査していく。	
		規範意識を高める。 年間の特別指導の件数について、前年度比の減少を目指す。 **Ａ：２６％減　　Ｂ：１１％減　　Ｃ：変化無し**	C	B		２２件から１６件には減少している。一人一人の規範意識は向上しつつあると考える。一方、一年生で学校生活に適応できない生徒など、特性を持った生徒への指導は課題も残る。		
		「王工スタンダード」の徹底をはかるため、「生指部通信」を発行する。 年間発行回数　**Ａ：１０回以上　　Ｂ：６回以上　　Ｃ：４回以下**	B	B		「王工生」とは何かを問うことを中心に効果的に発行できた。		
	自他共に「命の尊さ」について考える生徒を育成する。	生徒指導の現状と課題についての事例研修会を、学期に１回以上実施する。	A	B		外部講師による発達障害の研修、職員会議での研修などを行った。	職員の意識付けとして、年１回の外部講師による研修の継続、職員会議の最後に短時間で効果的な研修は継続していく必要がある。薬物乱用防止教室は、本来行うべき第１学年での実施を目指す。生徒同士のトラブルを種火の内に解決するよう、職員が緊密に生徒への声がけを行う。	
		安全教育の充実を図る。（交通安全教育、薬物乱用防止教室等の実施）	B	B		薬物乱用は第２学年で実施。原付免許と自転車通学生の集会も行った。		
	いじめなき学校を確立する。	いじめの未然防止、早期発見につとめ、いじめを認知した場合は「いじめ防止基本方針」に基づいて適切な対応を行う。	B	A		日常より特にクラス担任が緊密に生徒保護者との連携を図り、専門科や学年がサポートする体制がほぼ出来ている。		

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
人権教育活動	人権教育の推進体制の確立	新入生人権アンケートを実施・分析し、結果を人権ＨＲ計画などに反映させる。 **Ａ：反映できた　Ｂ：不十分だが反映できた　Ｃ：余り反映できなかった**	B	B	B	新入生人権アンケートの分析結果は職員会議で報告した。「在日韓国・朝鮮人問題」、「震災」、「原発」問題等で入学前の人権学習の減少傾向がみられたが、人権HRに割り振れる回数面から、人の生き方の根本的な視点を学習する内容の人権学年集会にして反映させた。	本年度は人権学年集会で「渋沢栄一に学ぶSDGｓ持続可能な経済をめざして」のDVDを見て、氏の「みんなで豊かになる、誰ひとり取り残さない」という考えを学んだ。人権問題の個別テーマの学習よりも、本年度は人権問題を生み出す根本的な切り口からの学習ができてよかったと思う。今後も、いろいろと工夫して展開していきたい。 人権HR指導案は、ここ数年の間にいろんなテーマについて蓄積がなされてきた。これを継続して、三年間の良い流れをつくり、改善を図っていく予定である。 安全・安心を感じられる学校環境の構築については、いろんな分掌と協力して改善してきたい。	A
		人権教育部で人権ＨＲ指導案を作成し、事前研修できるよう展開ｻﾎﾟｰﾄする。 **Ａ：年３回　Ｂ：年２回　Ｃ：年１回** 人権全校集会は、春はＤＶＤ視聴、秋はコロナ収束状況をみながらできれば外部から講師を招きたい。	B			全ての人権ＨＲ指導案を人権教育部で作成し、HR展開のｻﾎﾟｰﾄを行った。生徒は、よく取り組んでくれて、旨くHR展開できたと感想を頂いた。 二学期は、夏休み期間延長や分散しての行事実施のため、実施できない人権集会やHRがあった。		
		安全・安心を感じられる学校環境にできるよう、職員の意識向上をめざした啓発を心がける。 **Ａ：年３回以上　Ｂ：年２回　Ｃ：年１回**	C			安全・安心を感じられる学校環境をめざした活動案内や紹介を幾分かは行ったが、充分とは言えない。		
	人権尊重の知識や態度の育成	生徒個々の実体験を題材とした人権作文を提出させる。 **Ａ：提出率９５％以上　Ｂ：提出率８５％以上　Ｃ：提出率６５％以上**	A	B		夏休みの課題というかたちで全校生徒に人権作文を書かせ、人権について考える機会をもった。個々の体験に基づいた事柄や社会情勢を反映したような内容も書かれており、良い作品が多くあった。	人権作文は、今後も夏休み課題というかたちで全校生徒に書かせていきたい。 「人権を確かめあう日」啓発文は、次年度も人権教育部部員で作成して生徒と職員に啓発していきたい。この啓発は紹介と教室掲示にとどまっているクラスが多いと思われるが、時間が取れるようであれば、HR材料として展開してもらってもよいのではないか。 特別支援学校との交流活動は次年度もコロナ収束状況を見ながらも、できれば生徒会役員メンバーにも加わってもらって訪問するかたちで交流会をもちたい。	
		人権を確かめあう日の啓発活動を継続して行う。 **Ａ：年７回以上　Ｂ：６～４回　Ｃ：年３回以下**	A			「人権を確かめあう日」を啓発する文章を人権教育部部員で作成し、教室掲示して啓発活動を予定通り７回実施した。		
		特別支援学校との交流活動をとおして、実践的な人権尊重の態度の育成を図る。 **Ａ：年間活動３回以上　Ｂ：年間活動２回　Ｃ：年間活動１回**	C			特別支援学校との交流活動は、コロナ感染拡大防止のため本年度も年１回になった。作品交換と手紙交換やDVDを使って交流会をもった。		
	特別支援体制の充実	特別な支援を要する生徒の状況を把握し、校内関係教員・保護者ならびに関係諸機関との連携を図り、個に応じた合理的配慮に努める。	－			本年度より、この活動は特別支援委員会へと移管された。	－	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
文化図書活動	読書に対する意識向上に努め、図書室の利用促進・活性化を図る。	新着図書・話題の図書を、図書館だよりや手作り掲示板を活用して紹介する。 貸出冊数の増加割合（前年度比） **Ａ：３％以上　Ｂ：１％以上３％未満　Ｃ：１％未満**		C	B	１年生の仮校舎が図書館から遠くなったこともあり、１年生の利用が少なかった。	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、今までのように充分な図書館運営ができなかった。 今年度も感染拡大防止の対策として、カウンターに飛沫防止カーテンの設置やハンドソープ、消毒・除菌スプレーの設置を行った。また、ソーシャル・ディスタンスとして使用できる椅子の数を減らしたが、来年度も引き続き行っていく。 図書館だよりは生徒に配布や教室に掲示している。　「朝の読書週間」も毎学期実施して、読書に関心を持ってもらい、日常でも読書の習慣をつけていってもらいたい。 来年度以降も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止をしながら、図書館運営を推進していきたい。	A
		図書館だより「飛行船」を発行し、学級での掲示や配付する。内容はタイムリーな話題や新着図書の紹介で、提供することにより、図書館活動の広報を図る。 年間の発行回数　**Ａ：６回以上　Ｂ：５回　Ｃ：５回未満**		A		図書館だより「飛行船」を１年間で６回発行できた。 また、各学級でも掲示されていた。		
		「朝の読書週間」（年間３回）を通して、読書の習慣を身に付けるよう動機付けをする。 読書週間の回数　**Ａ：３回　Ｂ：２回　Ｃ：２回未満**		A		「朝の読書週間」はほぼ予定通り実施できた。ただ、新型コロナウイルス感染症の関係で２年生の修学旅行が日程変更になり、読書週間の日程と重なり、参加できなかった。		
		王工祭で文化図書委員と有志によるビブリオバトル（知的書評合戦）を実施し、読書の啓発を行う。 実施　**Ａ：実施＋広報活動　Ｂ：実施のみ　Ｃ：未実施**		C		新型コロナウイルス感染症の関係から、王工祭の実施計画が変更され、ビブリオバトルは実施できなかった。		
	文化図書委員の育成に努める。	貸出・返却等のカウンター業務を分担し、責任を持たせる。 担当　**Ａ：90%以上　Ｂ：75%以上90%未満　Ｃ：75%未満**		B		文化図書委員は積極的に活動を行った。	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒によるカウンター業務が十分にできなかったので、来年度は今までのように生徒にカウンター業務を任せていきたい。王工祭の実施計画が変更されたため、図書館関連のイベントがなくなってしまったが、来年度は復活させていきたい。 また、文化講座も観客が密になることが懸念されたが、開催方法を工夫して実施していきたい。	
		図書館だより「飛行船」の発行、ビブリオバトル、文化講座、お茶席等の企画・運営をさせる。またベルマーク教育助成運動に参加し、図書購入のために自分たちができることを意識させるとともに、ボランティア意識の向上を図る。 企画・運営の予定実施 **Ａ：80%以上　Ｂ：60%以上80%未満　Ｃ：60%未満**		B		図書館だより「飛行船」は予定通り発行できたが、王工祭の実施計画が変更され、ビブリオバトル、お茶席が中止になった。また、文化講座は新型コロナウイルス感染症の関係で実施できなかった。ベルマークの回収は協力的であった。		
	蔵書管理の効率化を図る。	現在導入されているコンピュータによる図書検索システムの活用をさらに進める。		A		活用できていたが、コンピュータ自体が古い。	現在使用しているコンピュータが古いので、新しいシステムを活用できるコンピュータに更新してもらいたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
進路指導	望ましい勤労観、職業観の育成に努める。	教育活動全体を通じて、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させるとともに、基本的生活態度を確立させるため、挨拶・服装・メモなど社会人マナーを身に付けさせ、社会人としての自立に向けた指導を行う。　挨拶・服装・メモ等について生徒意識調査を実施し、各項目において「必ずしている」と回答した生徒の割合。 **Ａ：９０％以上　Ｂ：８０％以上　Ｃ：７０％以上**	C	C	B	挨拶・服装については「必ずしている」と回答した生徒は1学期は80%を超えているが、２学期では74%と生徒の意識が下がってしまっている。メモをとることに関しては、１学期も２学期20%をきる調査結果となりました。	本年度も新型コロナウィルスの影響が残る中での年度初めとなりました。特に学校社会での指導では、挨拶、礼儀を身につけるための集団行動で、１年生に指導するのですが、学年毎の集団を作れなかったり、指導する側が慌ただしくなり、落ち着いた指導ができてなかった点もあります。メモを取るという習慣についても、様々な行事を通じて指導するのですが、その行事がないことにより、指導のタイミングがない状況となってしまった。	A
	生徒に自らの自己実現を目指して努力させるための系統的な指導体制を確立する。	就職希望者に対して、就職セミナー（筆記試験対策）及び面接指導の充実を図り、就職内定へ向けた指導を行う。 就職希望者の一次募集での内定率　**Ａ：８０％　Ｂ：７５％以上　Ｃ：７０％以上**	－	A		昨年から続くコロナ禍であり、就職活動にも様々な影響があった。しかし、企業内では人手不足の職場が多くあり、求人数も多く一次の合格率は例年を上回った。	就職に関しては、次年度からの経済状況の変化も関わってきている業種などもありますが、全体的に考えると求人票、求人数の増加している。個々の企業から多く寄せられる声は、「人手不足」であり、重要な作業工程の後任者を育成したいという声が多かったです。 学校は１学期から昨年より少しできることを増やして、学校生活を送れるようになっています。日々の積み重ねが、生徒の進路に結びつくので、学年主任、担任、副担任、学年係の先生方で協力して、挨拶、礼儀など日頃の生活をきちんと声かけすることから、就職や進学に結びつくと考えられるので、しっかり教職員が協力して生徒への伝えていく必要がある。	
		進学希望者に対して、進学セミナー（数・英・理講習会）及び個人指導を実施するとともに教材の動画配信サービスを利用した進学対策の導入をとおして、現役合格を目指した指導を行うとともに、積極的に情報提供を行う。 国公立大学現役合格・国立高専編入者数　**Ａ：３名以上　Ｂ：２～１名　Ｃ：０名**	－	C		国立大学、国立高専に合わせて４名が受験したが、国立大学1名、国立高専１名となり計２名の合格者出すことができた。まだ、１名は一般入試で国立大学を目指している。学校の授業以外に、進学希望の生徒が積極的に受験勉強ができる環境や雰囲気作りが必要と考える。		
		公務員希望者に対して、公務員セミナーなど個別指導を実施し、現役合格を目指した指導を行う。 公務員（技術・事務・消防・警察・防衛など）現役合格者数　**Ａ：３名以上　Ｂ：２名　Ｃ：１名以上**	－	A		自衛隊に10名、警察官１名合格。 コロナ禍で校外のセミナーが中止となり、本校でのセミナーもできず、生徒は、独自で勉強して合格することができた。		
	キャリア教育を推進するため、地域や産業界との連携を図り、就業体験学習を実践する。	インターンシップ体験発表会等を実施し、就業体験の必要性を理解させ、参加を希望する生徒を増加させる。また、就業体験学習を実施してくれる受け入れ事業所の開拓に努める。 インターンシップへの参加者率（２年生）　**Ａ：１００％　Ｂ：９５％以上　Ｃ：９０％以上**	－	B		コロナ禍で実施ができない企業もあったが、12月は感染者数も減少している状況であり、今年度は問題なく実施することができた。参加率は96%となったが、進学者なども含め学校行事ととらえて、参加率を増やしたい。	インターンシップへの参加率を上げるためにも、年度当初より職業観に対する考えを生徒に持ってもらえるように、１学期から進路のホームルームなどで考えさせて、生徒の進路実現のための今後の行動を一緒に考えていく。	
	進路決定に必要な能力を養い、適切な情報提供を行う。	各機関の担当者や社会人講師、卒業生による説明会や講演会等を開催し、就職や進学に向けて幅広く情報を提供するとともに、入試や採用試験対策の機会を増やす。 進路に関する行事に対して「満足している」「ある程度満足している」と回答した生徒の割合 **A:１００％以上　B:９０％以上　C：８０％以上**	－	C		コロナ禍で社会人講師も卒業生による説明会や講演会が中止となり、就職や進学に対する情報提供が減ってしまったことにより、生徒からの満足度が下がった。 進路に関する行事に対して「満足している」「ある程度満足している」と回答した生徒の割合が８６％でした。コロナ禍ということもあるが、生徒への情報発信を今後検討する必要性がある。	２年間続いたコロナ禍なので、過去を振り返りイベントの日程を、感染拡大が比較的少ない時期を狙って実施をしていきたいと考える。やはり、生徒へのキャリア教育として、外部社会人講師、卒業生などから講話いただくことで、生徒の満足度も上がると考えます。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
保健体育	体育行事を行うことにより、自主性と積極性を育てるとともに、生徒間の親睦を図る。	各行事において、生徒自ら準備・運営・片付け等を行わせることにより、自主性と団結力を養うとともに、それらに携わってくれた生徒に対する言葉がけを意識し、学校全体に感謝の気持ちと協力する心を培う。	A	A	B	昨年度の反省を踏まえ、今年度は様々な工夫を行い、体育大会の実施ができた。三密回避の観点から、授業においてクラス単位で少しずつ準備を行っていったことで、真に全員で準備ができた行事となったと思う。	規模を縮小しての体育行事であったが、生徒たちは楽しんで準備・後片付けも含め積極的に参加してくれていた。 常に創意工夫のもと、極力、行事等を実施することが大切であると学ぶことができた。	A
		体育行事を目標に、日頃の体育の授業において、感染症予防に留意しながら基礎練習を通し体力の向上と高い意識を養う。	B	B		感染症予防の観点もあり、様々な工夫を行いながら基礎練習等に取り組めたと思う。		
	各自の身体の健康について理解させるとともに、生徒の保健意識の向上を図り、健康の保持増進に努める。	定期健康診断および検診結果に基づく早期治療の徹底を図る。 Ａ：９０％以上　Ｂ：８０％以上　Ｃ：６５％以上	B	B		新型コロナウィルス感染症の流行が止まず、今年度も感染症予防の観点も含め、手洗い・うがいや食事・睡眠の大切さなど、健康に関する情報を、これまでよりも発信できたと思う。	今年度も例年より感染症予防の意識が高まっていることで、インフルエンザの流行も減少しているように思うが、今後も気を抜かずに、普段より予防や基本的生活習慣の大切さを授業やＳＨＲで啓発していく。また、実技や保健授業で毎回、食事の大切さ、欠食の影響(体の機能・健康)を伝えてきた成果はあるが、１００パーセントに近づけるには、担副の先生方や専門授業の先生方からも啓発指導の協力をお願いする。	
		掲示物や配布物だけにとどめず、授業やＳＨＲ等の中で言葉を通した保健指導もさらに充実させる。	A	A				
		生徒保健委員会活動の活性化を図る。 Ａ：３０回以上　Ｂ：２０回以上　Ｃ：１０回以上	A	A				
	望ましい食事の習慣を身に付けさせる。	朝食を摂る意義と栄養バランスの定義を考えさせる。各家庭に栄養バランスのプリントの配布をするとともにアンケート を実施し、その前後にも担副の先生や専門授業の先生から啓発指導の協力をお願いする。 Ａ：９５％以上　Ｂ：８５％以上　Ｃ：７５％以上	B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
環境厚生	学年末の教室整備実施への手だてに万全を期し、必要な諸条件を整えるとともに、諸設備の点検と保全を行う。清掃用具購入コスト削減のため工夫する。	掃除道具の不足などを把握する。	C	C	B	その都度の口頭による迅速な対応により、安全シートの提出は行わなかった。監督場所の安全点検では、設備についての点検と掃除用具の点検があるので、そのあたりを整理する必要がある。	監督者の煩雑さ、かつ安全第一を考え、設備の不良箇所については、今後も口頭で伝えてもらい、迅速に対応することで事足りると考える。掃除用具の点検については、学期に一度程度でよいと考える。	A
		事務室と連携し、修理・営繕を要するものは速やかに対応し、教室整備関連の必要購入備品は、早い時期に購入する。部品修理できる物は、部品交換を行い、購入コスト削減に努める。 コスト削減率　**Ａ：５％以上　Ｂ：３％以上　Ｃ：１％以上**	B	B				
	日々の清掃およびゴミ分別の徹底を図り、定期的な大掃除の実施により、校内美化をより進める。	王工祭時のゴミの分別・収集・処理は、美化委員への指導を徹底する。	B	B		文化祭については実施を見合わせたので本来評価はできない。また、毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底することや、各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理については概ね徹底できた。	次年度も継続して、毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底することや、各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理を徹底していきたい。	
		毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底する。　各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理を徹底する。 ゴミの分別が確実にできている学級の割合　**Ａ：９０％以上　Ｂ：８０％以上　Ｃ：７０％以上**	B	B				
	他の分掌との連携を図ることのできるシステムを確立する。	地域への清掃活動を、学年毎に年１回（計年２回以上）実施する。 各学年参加者の割合　**Ａ：９０％以上　Ｂ：８０％以上　Ｃ：７０％**	B	B		生徒会指導部と連携してクリーン作戦を行うことができた。また、各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくすことができた。	次年度の継続して、生徒会指導部と連携しながらクリーン作戦等の清掃活動を実施していきたい。また、各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくしていきたい。	
		各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくす。	B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
生徒会指導	生徒会活動が自主的活動になるように導く。	規律正しく、生徒自身成長できる学校生活になる校風を創造する。 「凡事徹底」を普通にできるようにさせる。	A	A	B	・本年度は、コロナ感染予防対策を万全に実施した上で、生徒会主催の学校行事を全て無事に終えることができた。 ・CCC活動についても一学期から通常通り実施し、クラブ単位で計24回（1月末現在）実施した。 ・制服の移行期間について、柔軟に対応してほしいとの生徒会からの要望を生徒指導部と協議した結果、従来より前倒しで実施できるように改善できた。	・生徒会執行部のリーダーシップを育て、各種行事の企画・立案を促進させるため、月２回程度の役員会を開催していく。 ・生徒会選挙の各種公約を全て実現するさせないは別として、役員会ででてきた学校改善のための要望などは積極的に公の場に出していきたい。（生徒会執行部のやる気を育てたい）	A
		ボランティア活動を活性化させる。　回数　**A:２０回以上　B:１５回以上　C:１０回以上　D:１０回以下**	A	A				
		生徒会行事の企画・立案にリーダーシップを発揮させる。	B	B				
	部活動の活性化を促す。	生徒のクラブへの加入を勧め、生徒会・各部でのアピール活動を積極的に行い、部活動加入率を上げる。　部活動加入率　**A：85%以上　B：80%以上　C:75%以上　D:70%以下 とする。**	C	C		・加入率は73.7%（前年比－8.9p）だった。1，2年は前年比で横ばいだったが、3年は65,8%（前年比－24.6p）と大幅に減少した。2年次で多くの部員が退部したためと思われる。 ・各クラブ予算適正化について、部員の増減を目安に全体として総額を減額し、クラブ個人登録料を全額生徒負担とした。今後さらに生徒数の減少に伴う部員減に対応するため、さらに適正化をはかっていきたい。	・来年度も各クラブ予算をクラブ員の増減を一つの目安として計画するなど、将来の生徒減に対応できるよう予算の適正化をはかっていく。 ・部員募集はこれまで年度当初のクラブ紹介とポスター掲示だったか、今後は年間を通して、ポスター掲示や募集の呼びかけを行い部員増につなげていきたい。	
		生徒が生涯を通して楽しめるスポーツや趣味を持たせる。 生徒会予算の適正化をはかる。	B	B				
	ホームルーム活動の活性化を図る。	自主的で民主的なホームルーム活動をするための仲間づくりを進める。	C	C		・年間HR計画中の学級裁量のLHRが各学年平均で17時間前後と多かった。各学年とも計画的に進めていただいていると思うが、計画段階で最低でも7～10時間程度に抑えたい。	・昨年に引き続き、年間HR計画中の学年裁量のLHRについて、学年・分掌での綿密な計画をお願いしたい。（特に自主性の育成・なかまづくりなどを目途とした計画）	
		各クラスの目標を定め、その実践に努める。各種専門委員会からの目標・意見をくみ上げ、実践に取り組む。	B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
機械工学科	機械工学科の運営	①本校指導の重点「一人一人を大切にする集団づくり」に関し、生徒・保護者に安心・安全を与えられる環境を整備するための課題を抽出する。 ②機械工学科の取組を外部に効果的に発信する方法について検討し、一部実施する。	A	A	A	①特に実習における課題を抽出し、機材の整備を行っている。今年度は高周波誘導炉（鋳造実習）の修繕を実施予定である。 ②機械工学科の取組を、本校ホームページにて積極的に発信を行うことができた（２ヶ月に１回程度）。また、令和３年度全国産業教育フェア埼玉大会の作品展示部門にて、課題研究の作品発表を行うことができた。	①今後も安心・安全を与える環境整備を継続していく。 ②今後も本校ホームページにて積極的に取り組み内容を発信していく。（１ヶ月に１回程度の発信を目指す）。	A
	観点別評価に向けた検討	新学習指導要領を見通し、観点別評価について検討する。 ① 現在の評価法の課題を抽出する。 ② ①の課題を解決できる観点別評価の内容について検討し、一部実施する。	B	B		①特に実習における評価法の課題を抽出した。 ②実習の評価法の改善を現在行っている。	①特になし ②次年度より新学習指導要領の評価法への移行をスムーズに実施できるよう、引き続き機械工学科の実習検討委員会にて検討を行う。	
	探究科目「課題研究」・「Research＆Discovery（R&D)」および外部連携の充実	探究科目（課題研究・R&D）や外部連携について内容を充実させる。 ①　創意工夫を凝らした課題研究テーマを検討する。 ②　探究学習を進める方法について、R&Dの内容を検討し実施する。 ③　ものづくりに関し外部より必要な技術指導をしてもらう等、派遣講師の効果的な活用方法を検討し、実施する。 ④　企業実習を実施し、加えて企業や地域と連携した取り組みを検討する。	A	A		①今年度も創意工夫を凝らした課題研究テーマについて、実施することができた。その内容の一部を、令和３年度奈良県産業教育フェアにて発表することができた。 ②今年度から開講した科目「R&D」について、内容を検討し実施できた。その内容について、本年度工業科 学習指導研究会にて発表できた。 ③技能検定（旋盤２級および３級）取得に向け、シバタ製針株式会社（葛城市）より講師をお迎えし、活用することができた。また、奈良県溶接技術競技会に向け、株式会社丸島アクアシステム（大和郡山市）より講師をお迎えし、活用することもできた。 ④GMB株式会社（河合町）のご協力を得て、３年生３名に対し通年で企業実習（奈良県版デュアルシステム）を実施できた。特に、企	①特になし ②科目「R&D」の取組を整理し、来年度の実施内容を検討する。 ③今後も派遣講師を積極的に活用していく。 ④生徒の資質能力をさらに向上させるため、企業実習の内容等を充実していく。 特に③、④を中心に、新学習指導要領の大きなスローガンである「社会に開かれた教育課程」を目指し、充実を図っていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
電気工学科	電気工学科の運営	①新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。 個の能力と他者と協働する力が養える魅力のある教育課程の編成を検討す ②各科目の学習内容に適応した観点別評価の方法を検討する。 ③実習室の施設・設備の維持管理方法について、実習室の保全や安全に作業が行える観点から検討する。	B	B	B	1年生ではチャレンジ、２年生ではResearch＆Discoveryが新科目として始まったが、学習状況は非常に良好であった。 Research＆Discoveryでは観点別評価を導入した。 備品及び消耗品の整理を行い、実習の授業が円滑に行えるように環境改善を図った。	来年度の新入生より新学習指導要領のが適応されるため、探求系科目「課題研究」・「Research＆Discovery（R&D)」・「チャレンジ」以外の科目でもPBLの機会を充実させていく。 実技科目、座学ともに観点別評価を導入するにあたり、しっかりとした評価基準の策定を行っていく。	A
	学習指導	①職業人として問題発見・解決能力を育成できる授業について検討する。 ②ICTを活用した「興味がわく」・「わかりやすい」授業を検討する。 ③専門的な知識・技術を身につけるために資格取得に向けて組織的な取り組みを検討する。	B	A		実技科目、座学ともにプロジェクターを使用してパワーポイントでの講義を行った。iPadを活用して自ら学びに向かう授業を展開した。コロナ感染拡大防止のため座学の科目ではオンライン授業を行った。 第二種電気工事士試験や各種技能検定において、放課後及び長期休業中を利用して講習を行った。	来年度の新入生はBYODが導入され、教室には電子黒板が設置されることからICT機器を活用した授業形態を検討していく。 観点別評価のため評価資料の充実が求められることから、ICT機器及びフォームなどのアプリを活用し、小テストや課題提出等を行っていく。	
	探求系科目「課題研究」・「Research＆Discovery（R&D)」・「チャレンジ」の発展および外部連携の充実	①主体的かつ協動的に取り組める課題研究のテーマを検討する。 ②R&Dでの授業形態、評価法等の構築 ③資格取得に意欲的になる指導方法および勉強法の確立 ④企業連携を通じての専門知識・技能の習得するための体制について検討する。	A	A		Research＆DiscoveryではICTを活用してディスカッション、発表、資料製作、回路製作とその点検などを行った。評価は現行の評価法と観点別評価の両方で付けたがあまり差はなかった。 関西電力送配電株式会社と連携し、夏季の就業体験と堺港火力発電所の見学を行った。 奈良県電気工事組合青年部会のご協力で本校新校舎棟の電気設備工事の見学を行った。	課題研究では教員が複数名いる班を構成して主体的かつ共同的に作業を行うことができる状況を増やしていく。 本年度のResearch＆Discoveryでは評価や授業形態の策定に重きを置いたので来年度は内容を電気の専門知識も並行して学べるテーマを増やしていく。 今年度もコロナ感染拡大防止により外部連携で中止になることがあったので、オンライン等も活用して連携できる方法を模索してい	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
情報電子工学科	情報電子工学科の運営	新学習指導要領に則した教育課程編成と観点別評価構築 ・工業高校の情報系学科として、これからのSociety5.0社会に対応できる人材育成に向けたカリキュラムの編成を検討する。 ・現状の評価法の課題を整理し、3観点の評価法の構築に向けて検討する。 実習教室の環境整備 ・生徒、教員が安全に実習が行える環境に整え、備品配置や管理方法を検討	B	B	B	PBLを用いた学習法を2学年「Research＆Discovery」や3学年「工業管理技術」で取り組み、生徒の授業への参加意識が向上された内容を奈良県工業科学習指導研究会において発表を行った。 観点別評価について、次年度の実施に向けて評価方法や評価基準の検討を行った。 実習教室の環境美化を行い、教育環境の改善を図ってきた。	次年度の新学習指導要領の導入により、各科目の教育内容に変更があるため、それに対応した指導法の構築を進める。 実習教室の環境整備を推し進め、学習に向かう姿勢を促すような環境維持を今後も行っていく。	A
	学習指導	わかりやすい授業、資格検定取得に向けた取り組み ・生徒一人一人に適した指導をきめ細かく行い、基礎能力向上と資格検定の合格につなげ、更なる資格取得に向けて取り組む指導を行う。 自ら学ぶ態度、協働的に取り組む態度の育成 ・各科目において提出期限を守り、内容も丁寧に仕上げる指導を行う。 ・学校設定科目「Research＆Discovery」において、PBLを用いたグループ活動や成果発表を行うことで、協働的に取り組む態度を育成する指導を検討す 社会人講師の活用 ・知識や技術、コミュニケーション能力の向上を図るため、社会人講師を活用した講義を実施する。	B	B		教員が生徒にわかりやすい授業に心がけ、生徒に適したきめ細かい指導を行ってきた。しかし授業改善アンケートや面談等において、授業内容や教員の指導の改善を求める意見もあったことから、今後も教材研究や指導力向上を図るように努めていかなければならない。 資格・検定取得に向けた指導を行ってきたが、各検定の合格率は前年同様か少し低下が見られた。 予定していた社会人講師の講座の一部を中止したが、知的財産権やコミュニケーション講座、企業連携実習は講師や関係機関の協力で行うことができた。	わかりやすい授業展開やきめ細かい指導を行うため、教員の情報交換や生徒とのコミュニケーションをより図っていき、生徒の学習意欲向上を図っていく。 学校設定科目「チャレンジ」（1学年）や「Research＆Discovery」（2学年）の教育内容の検討を行い、「課題研究」（3学年）につながる教育カリキュラムの構築を進めていく。 社会人講師については、今後も実施していく予定ですが、社会情勢の変化や感染症対策を取った上で計画していく。	
	「Research＆Discovery」・「課題研究」、 教員研修	「Research＆Discovery」・「課題研究」の取り組み ・2年生学校設定科目「Research＆Discovery」において、広い視野で社会の物事を捉える力、課題を見つける力、問題解決に向けて考える力、グループ活動を通したコミュニケーション能力を養い、3年生「課題研究」において「人に役立つものづくり」を目標としたものづくりをチームで取り組むことにより、地域社会で活躍できる人材の育成をめざす。 地域学校・企業との連携事業 ・小中学校や企業・団体と連携した授業・実習に取り組むことにより、生徒の探究心向上と教員の指導力向上を図る。 教員の指導力の向上 ・教員が各種研究会などで研修を図り、得た研修成果や知識を具体的に授業で生かしていく。	B	A		今年度から実施した2年生学校設定科目「Research＆Discovery」において、具体的方策の達成に向けた授業内容の構築を図ることができ、課題研究」につながるカリキュラムの検討を今後も重ねていく。またこの成果を奈良県高等学校学習指導研究会にて報告した。 コロナ感染拡大予防により、課題研究の遅れや、地域連携に制約があったため、以前のような小中学校と連携した授業展開が行えなかった。 科内のプロジェクト会議や教科会議において、意見交換と情報共有を行い、生徒や授業の様子などの情報交換を行ってきた。	課題研究は工業高校で学んだことを活かす集大成であることから、今後も「人に役立つものづくり」をテーマに、地域や企業・団体との連携を進めていく。 また教員の指導力向上を図るため、授業や教材研究の情報交換や研修を重ねていく。 これからも多様な生徒対応に向けて、教員間の情報交換を今後も図っていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
第1学年	基本的生活習慣を確立する。	挨拶・マナー指導を徹底する。	B	B	B	様々な場面で、生徒から積極的な挨拶ができるようになった。	基本的な生活習慣は身についていると感じる。来年度は、本校の歴史や歩みをしり、自覚を持った取り組みを促進する。	A
		生徒指導部と連携を取りながら、入学時より、校門指導や学年の定期的な頭髪・服装指導を徹底する。	B	B		月に一度、頭髪・服装点検を行い、改善箇所が減少傾向にある。		
		王寺工業高校生としての自覚と誇りを持って生活できるように、ホームルームや学年集会において指導する。	B	B		挨拶を積極的に行い、真剣に学習する姿勢が身についてきた。		
	進路実現に向けて、基本的な事柄から取り組む。	生徒各自が夢を見つけられるように適切なアドバイスを行い進路実現に向かって取り組ませる。	A	A	B	各担任による面談を中心として、進路を考える機会を作った。	進路実現に向けた学校生活や学習活動の定着とともに、自主的な活動を促進する。キャリアパスポートを活用し、長期の目標と短期の目標を定期的に行い、生徒自身の在り方を振り返る機会を作る。	
		朝学習の時間にマナトレを導入して、基礎力をつけていく。	B	B		落ち着いて、学習できているが、基礎力の定着には課題が残る。		
		人と関わる力や責任感などを伸ばすためにクラブの加入率100%を目指す。 クラブ加入率　**A:95%以上　B:90%以上　C:80%以上**	C	C		加入率は８０％と低調ではあるが、加入生徒は熱心に活動している。		
	生徒理解に努める。	個人面談や家庭訪問等を通じて、生徒の状況把握と生徒理解に努める。また、家庭と連携し生徒の成長をサポートする。	A	A	A	様々な悩みを抱えている家庭が多い中、密な連絡を取ることができた。	「報・連・相」により、担任一人で抱え込まない環境をつくる。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
第2学年	規律ある生活態度の 確立と安全教育の推進を図る。	挨拶の励行、マナー指導を徹底し、社会に出るための準備を着実に行う。	B	B	B	積極的な取り組みをさせるには、挨拶やマナーの向上がなぜ必要なのか自覚させることが大切である。	普段のＨＲでの取り組みや学年集会等で、指導や説諭の機会を増やして生徒自身に考えさせ、自覚を持たせる取り組みを根気よく継続することが大事である。 教師サイドもクラス間での情報交換を行い、話し合う機会を増やして情報共有する方法を模索したい。	A
		学年を中心に生徒指導部と連携して、校門指導や定期的な点検を行い、服装・頭髪指導を強化する。	A	A		１学年から引き続き、クラスでの取り組みをベースに主任・副主任による定期的なチェックにより公平感を持たせ、素直に従う雰囲気をつくることができている。		
		王工生としての自覚と誇りを持って生活できるよう、ＨＲや学年集会において指導する。また、安全教育の強化を図り、安心で安全な学校を目指す。	A	A		安全・安心に留意し、修学旅行計画を見直して実施出来たことで学年団としての意識が向上した。		
	進路実現に向けた取組を強化する。	普段から進路設計について進路指導部と連携し、意識を高める。	B	B		進路部長の学年会議への参加、情報の共有等うまく機能してい	生徒自身の将来に対する意識がかなり低い印象が強く、学習に対しては特に取り組みが甘い。まず、クラスの現状に応じた進路を見据えた指導を考え、粘り強く続ける事が大事である。	
		進路指導部と連携し、インターンシップの体験発表会を参考に２学期末にインターンシップを実施し、希望者の参加率100%を目指す。 インターンシップ参加率　**A：100%　B：95%以上　C：90%以上**	B	B		コロナ禍が原因でインターンシップの実施自体が難しい中、企業側の協力もあり参加率９６％で終えることができた。しかし、卒業生招聘の講演会が中止となった。		
		第1学年に引き続き、朝学習においてマナトレ標準テキストを用いて指導を行い、基礎学力の向上を目指す。	B	B		進路実現の為、基礎学力の定着を目指した結果、一定の効果はあった。		

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果 1	自己評価結果 2	自己評価結果 総合	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
第3学年	基本的生活習慣を確立させる。	日々の学校生活の中で、担任、副担任、授業担当者、クラブ顧問、生徒指導部等、生徒に関わる全教職員が常に連携をとり、服装、頭髪の乱れを把握して指導する。	B	B	B	頭髪に関して以前どおり指導してきたが、2ブロックに対する社会的な流行があり、生徒たちの意識も低くなっている。教師間の連携の面で課題が残る。	学年を問わず生徒をどう成長させるのかを共通認識を持つ必要がある。学習指導、生活指導、人権意識など無責任になって担任だけが負担増になる状況が懸念される。	A
		最高学年として日々、社会人として必要な生活態度、マナー、けじめをつけることなど、時と場所をわきまえた行動ができるよう指導する。	A	B		就職活動中は、全体としてよく向上していたが、進路決定を機に意識の低下が見られ、挨拶に関しては非常に低くなってしまった。		
	進路実現に向けた取組を強化する。	コミュニケーション能力の向上を目指し、面接指導も含めて、挨拶、礼儀作法、エチケットなど、機会あるごとに実践させ、を身に付けさせる。	A	A		昨年度後半より行ってきた粗銅により、面接に向けて意識向上が図れた。	指導方法の世代間の伝達を、学校として考えるべきである。教員の成長をただ待つだけでは不十分に思われる	
		生徒の現在の希望状況をサーバ上にアップして効果的な活用を行うなどエ夫して、クラス担任間で逐次情報交換していく。	A	A		進路指導部を中心にシステムとして確立しており、学年での運用もうまく言っている		
		進路実現に向けて、生徒個人が希望した企業や進学先の情報収集をさせ、その　試験に臨むための対策を考えさせ、実行させる。	B	B		各担任の指導の下、情報収集を行っていた		
		就職内定率100%を目指す。内定率　**A:100%　B:95以上　C:90%以上**	B	B		現在１名のみが受験待ちである。		
		進学者合格率100%を目指す合格率　**A:100%　B:90%以上　C:80%以上**	B	B		希望校への進学がかなわなかったものも数名いる		

学校関係者によるご意見等（抜粋）

・対面の制限もあり、情報発信のためのホームページの充実・工夫は重要である	→	広報発信の質・量とも改善を目指します
・王寺工業高校のすばらしい取組をもっとプレゼン等で発信すべきである		
・教室にモニターがあれば望ましいのではないか	→	全教室に電子黒板が設置される方向です
・コロナ禍で行動が制限される中、色々な取組を行われていると感じた		
・挨拶、礼節等の指導が自分の将来につながっているという意識を高めていくべき		
・主体性と道徳を身につけるため、自己啓発書籍（「７つの習慣」等）を題材にした授業が必	→	ご意見を参考にキャリア教育に活かしてまいります
・今後の社会や企業が求める人材は、多様性を受け入れ協力・協働できる人、主体的に行動でであり、授業のプログラムについてもアップデートしていくことも求められる		
・生徒たちは、職業高校生としての自覚をもって授業等に望むべき	→	生徒達の学習等に向けての意識付けを行ってまいります
・各分掌において、良く検討され、実施・振り返り等が行われていると感じ、PDCAがしつかり行われている	→	今後も、各分掌で取組を継続しさらなる向上を目指します
・課題研究発表で協力させていただければと考える	→	ご協力いただける分野について検討したいと思います